

ゲームチェンジ2018

◆70

内燃機関のキーデバイスである点火コイルを製造するダイヤモンド電機。環境規制の強化で車両の電動化が本格化する中、同社は主力製品である点火コイルの高出力化や軽量化によって、ハイブリッド車などを含めて内燃機関を搭載した車両の燃費改善に貢献していく方針だ。

「2017年度を総括すると『中期経営計画』DSA2021の初年度だった。米国司法省が11年に調査を開始した点火コイルの販売で米国の独占禁止法に違反していた件で一時は経営危機に陥った。そこから再生の局面に入り、17年度には人件費を削減せず過去最高の営業

だ。トップシェアを狙うため、燃費が改善する点火コイルの開発に注力している。グローバルで自動車の電動化が進むと予想されるが、内燃機関を搭載する車が必要とされる以上、点火コイルを生産し続ける。環境に配慮した点火コイルを製造する必要がある」

「点火コイル以外の自動車向け事業は『世界最小サイズで世界最高電力密度と変換効率を持つDC/DCコンバーターを開発した。車載向けの製品や新たに農業や水産などの第一次産業向けの設備での実用化を視野に入れている。さらに変換効率を向上

て、欧州の中間地点にあるルクセンブルクに拠点を構えることが妥当と判断した。開所時の人員は3人体制で、事業の状況を見ながら年内に増員する」

「ASEAN（東南アジア諸国連合）の新車市場が回復している」

点火コイルで燃費改善に貢献



ダイヤモンド電機
の社長
小野 有里

「ルクセンブルクに販売拠点を7月に開所する予定だ。欧州では、ハンガリー工場で生産した製品を、同国のマジャールズズキヤ、欧米系自動車メーカーに供給している。欧州自動車メーカー向けの販売活動を考慮し

「巨大であることは間違いない。日系自動車メーカーが進出して生産・販売している以上、ともに歩むことが1次サプライヤーの使命だ。当社にとっては人口増加が見込めるインドのほか、タイも成長市場と見ている。両地域には工場も展開しており、納入先ニーズに対応した製品開発と供給に力を入れる」

「インドネシアに工場を新設する」

DC/DCコンバーターに期待

「インドネシアが成長の見込める市場であることは間違いない。当社は以前、インドネシアに工場を新設することを決めて公表したが、これを撤回した。一度、進出すると宣言したからには、約束は果たさなければいけないという責任もあった」

「自動車電動化が本格化する見通しだ」

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。